

## 国内の畜産物の需給動向

# 牛肉

### 8年3月の牛肉生産量、前年同月比1.6%増

#### 生産量

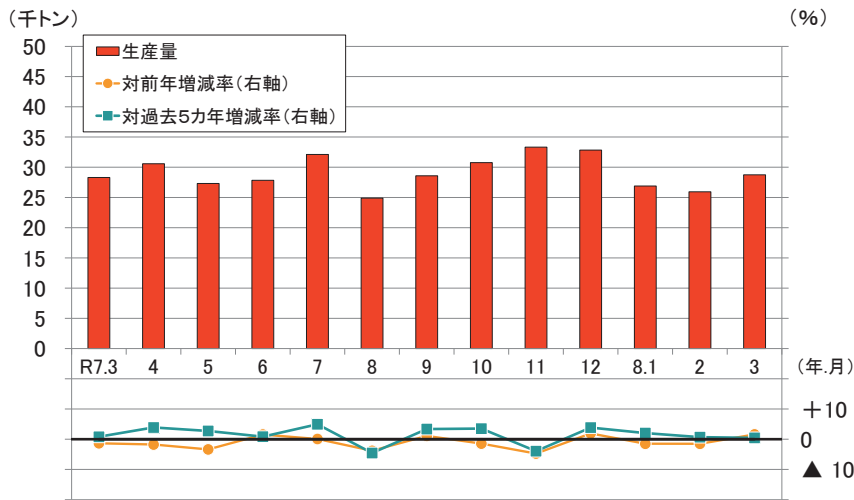
令和8年3月の牛肉生産量<sup>(注1)</sup>は、2万8758トン（前年同月比1.6%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。品種別では、和牛は1万4765トン（同1.6%増）とわずかに、交雑種は8012トン（同5.5%増）と

やや、いずれも前年同月を上回った一方、乳用種は5939トン（同3.3%減）と前年同月をやや下回った。

なお、過去5カ年の3月の平均生産量との比較では、0.5%増とわずかに上回る結果となった。

（注1）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」  
注：部分肉ベース。

#### 輸入量

3月の輸入量について、冷蔵品では、現地価格の高止まりなどにより主要輸入先である米国産の輸入量が減少した一方、豪州産の輸入量が増加したことなどから、1万3823トン（前年同月比3.7%増）と前年同月をやや

上回った（図2）。冷凍品では、米国産ショートプレート（バラ）や豪州産のうち主に加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が増加したことなどから、2万661トン（同17.4%増）と前年同月を大幅に上回った（図3）。この結果、輸入量の合計<sup>(注2)</sup>でも、3万4511トン（同11.5%増）と前年同月

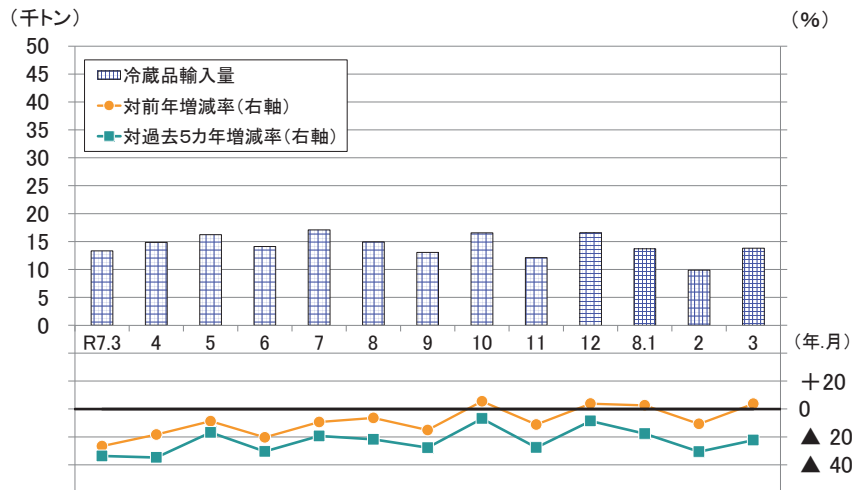
をかなり大きく上回った。

上回る結果となった。

なお、過去5カ年の3月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は22.3%減と大幅に下回った一方、冷凍品は6.4%増とかなりの程度

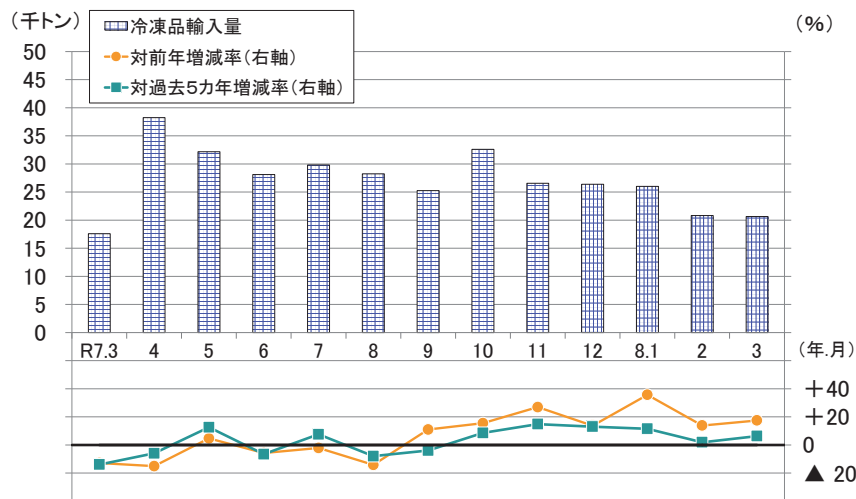
(注2) 輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

### 家計消費量等

3月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）<sup>(注3)</sup>は157グラム（前年同月比6.3%増）

と前年同月をかなりの程度上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の3月の平均消費量との比較では、6.5%減とかなりの程度下回る

結果となった。

3月の外食産業全体の売上高は、全国的に気温が上昇し、好天に恵まれた日が多く、月後半のイベント需要やインバウンド需要を取り込んだことや客単価上昇とファストフードの堅調な需要により、前年同月比5.7%増と前年同月をやや上回った。物価高による消費者の節約志向で客数が伸び悩む業態や企業もあり、各社とも期間限定商品の投入やキャンペーンの実施、CMやメディア露出などを強化することで、客数・客単価の維持に努めている（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。

このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、人気メニューの復活を含む期間限定商品の投入や春の新CMによる集客増などから、同6.1%増と前年同月をかなりの程度上回った。また、牛丼店を含むファストフードの和風は、新メニューの連続展開や人気タレントのCM起用による基幹商品の訴求力向上などから、同11.7%増と前年同月をかなり大きく上回った。ファミリーレスト

ランの焼き肉は、引き続きキャンペーンの実施に加え、春休みや歓送迎会の需要が好調で、一部では予約サイトの来店直前予約サービスを活用した集客増から、同5.3%増と前年同月をやや上回った。

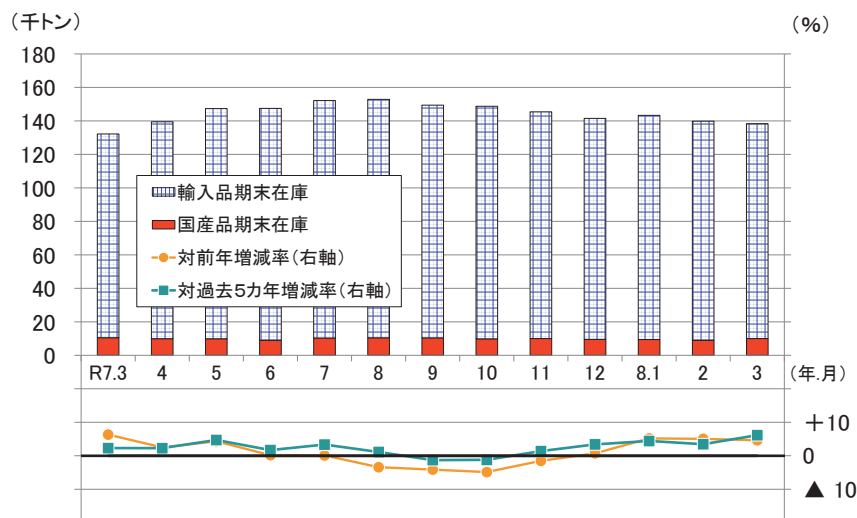
（注3）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

## 推定期末在庫・推定出回り量

3月の推定期末在庫は、13万8352トン（前年同月比4.6%増）と前年同月をやや上回った（図4）。このうち、国産品は1万32トン（同4.6%減）と前年同月をやや下回った一方、在庫の大半を占める輸入品は12万8320トン（同5.4%増）と前年同月をやや上回った。

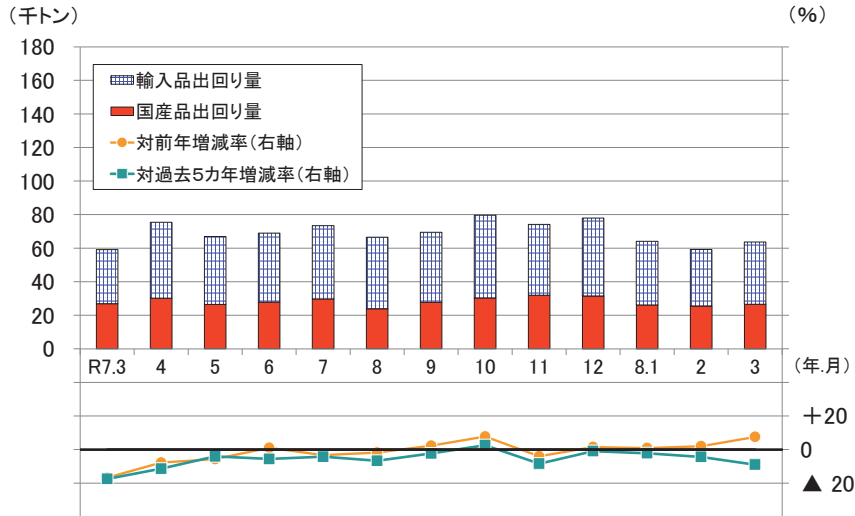
推定出回り量は、6万3637トン（同7.6%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図5）。このうち、国産品は2万6596トン（同1.3%減）と前年同月をわずかに下回った一方、輸入品は3万7041トン（同14.9%増）と前年同月をかなり大きく上回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部)

## 豚 肉

### 8年3月の豚肉生産量、前年同月比2.8%増

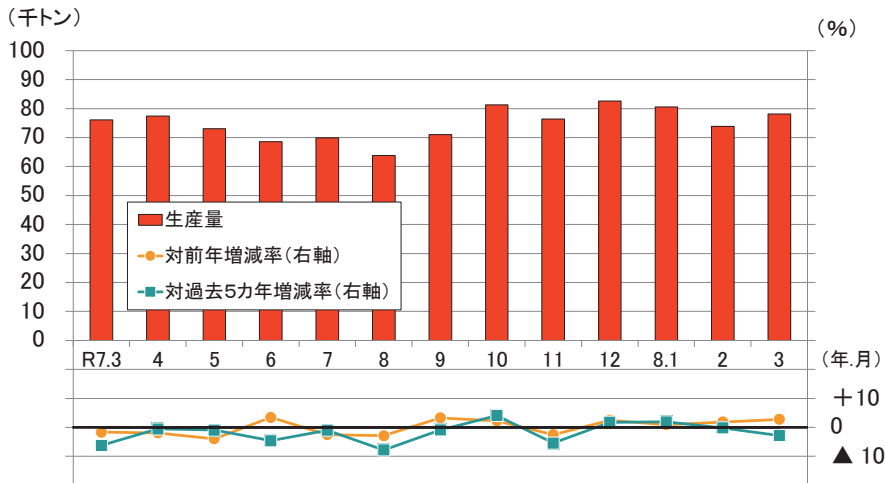
#### 生産量

令和8年3月の豚肉生産量は、7万8207トン（前年同月比2.8%増）と前年同月をわ

ずかに上回った（図1）。

なお、過去5カ年の3月の平均生産量との比較では、2.8%減とわずかに下回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：部分肉ベース。

## 輸入量

3月の輸入量について、冷蔵品は、価格や規格などで一定の評価を受けるカナダ産や、メキシコ産が増加したことなどから、4万1101トン（前年同月比22.9%増）と前年同月を大幅に上回った（図2）。冷凍品は、アフリカ豚熱発生によるスペイン産の輸入一時停止措置<sup>（注1）</sup>の影響がある中、代替として北米産やブラジル産が増加したことや、例年3月に行われる通関保留が限定的となったことなどから、3万5690トン（同9.8%増）と前年

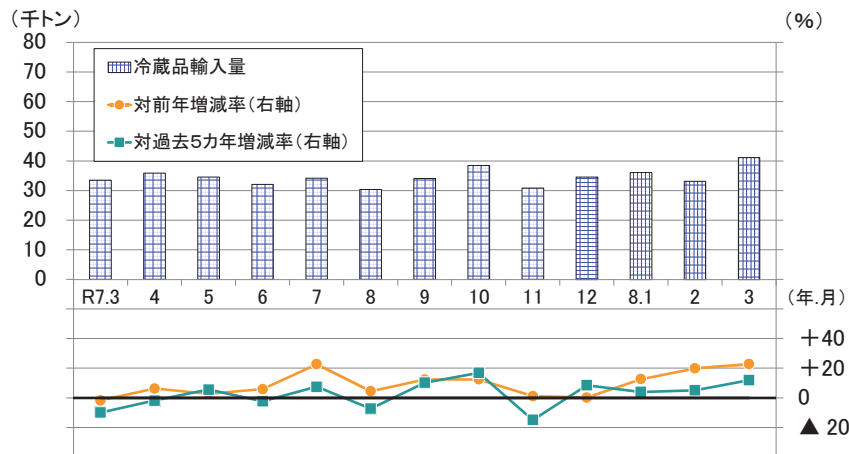
同月をかなりの程度上回った（図3）。この結果、輸入量の合計<sup>（注2）</sup>でも、7万6792トン（同16.4%増）と前年同月を大幅に上回った。

なお、過去5カ年の3月の平均輸入量との比較でも、冷蔵品は11.9%増とかなり大きく、冷凍品は7.2%増とかなりの程度、いずれも上回る結果となった。

（注1）農林水産省は、令和7年11月28日にスペイン産豚肉等の輸入を一時停止。その後、同年10月29日以前にと殺・加工・梱包まで終了しているものであり、かつ輸出されるまでの間、防疫上安全かつ衛生的に保管および輸送されたものであることをスペイン政府が証明しているものについては、輸入停止措置の対象外とすることを発表。

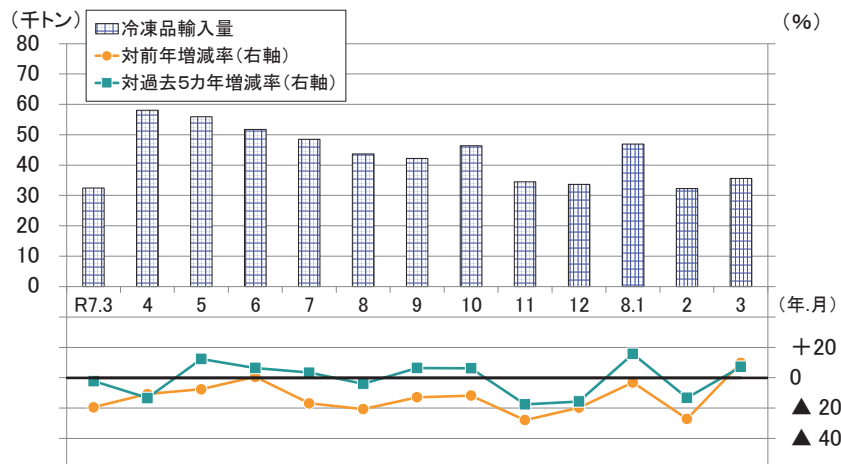
（注2）輸入量の合計は、くず肉を含む。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

## 家計消費量

3月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）<sup>(注3)</sup>は、678グラム（前年同月比2.2%増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の3月の平均消費量との比較でも、3.6%増とやや上回る結果となった。

(注3) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

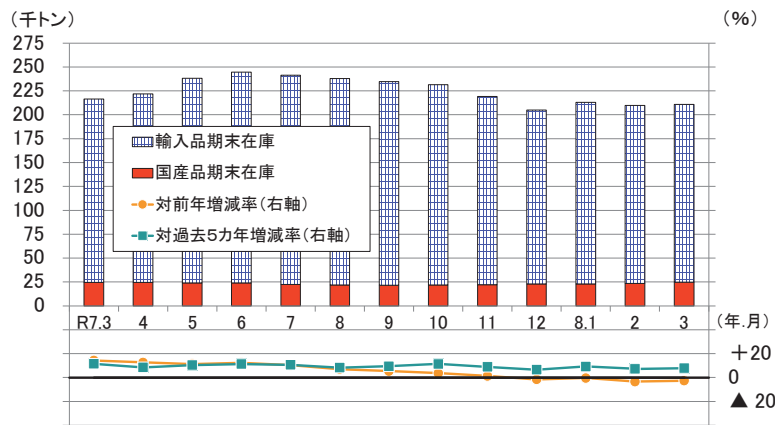
## 推定期末在庫・推定出回り量

3月の推定期末在庫は、21万908トン

（前年同月比2.6%減）と前年同月をわずかに下回った（図4）。このうち、国産品は2万4895トン（同1.9%増）と前年同月をわずかに上回った一方、在庫の大半を占める輸入品は18万6013トン（同3.2%減）と前年同月をやや下回った。

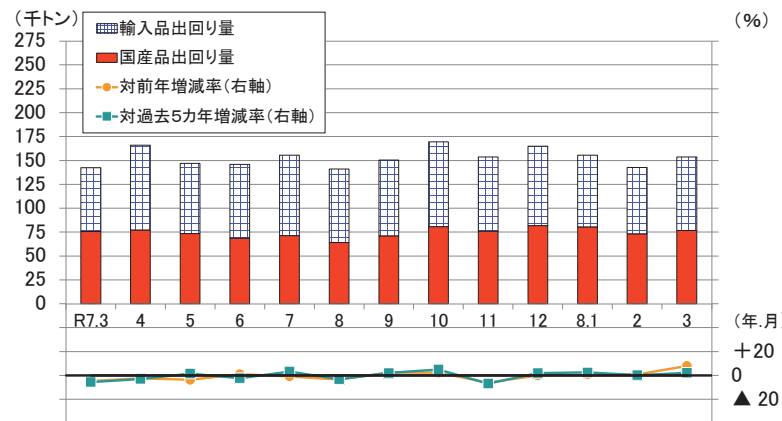
推定出回り量は、15万3557トン（同7.9%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図5）。このうち、国産品は7万6584トン（同1.3%増）とわずかに、輸入品は7万6973トン（同15.5%増）とかなり大きく、いずれも前年同月を上回る結果となった。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部)

# 鶏肉

## 8年3月の鶏肉生産量、前年同月比0.8%増

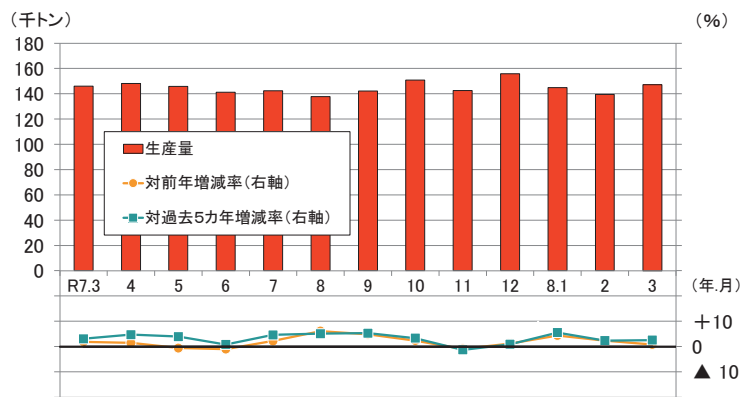
### 生産量

令和8年3月の鶏肉生産量は、14万7207トン（前年同月比0.8%増）と前年同月を

わずかに上回った（図1）。

なお、過去5カ年の3月の平均生産量との比較でも、2.6%増とわずかに上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ  
注1：骨付き肉ベース。  
注2：成鶏肉を含む。

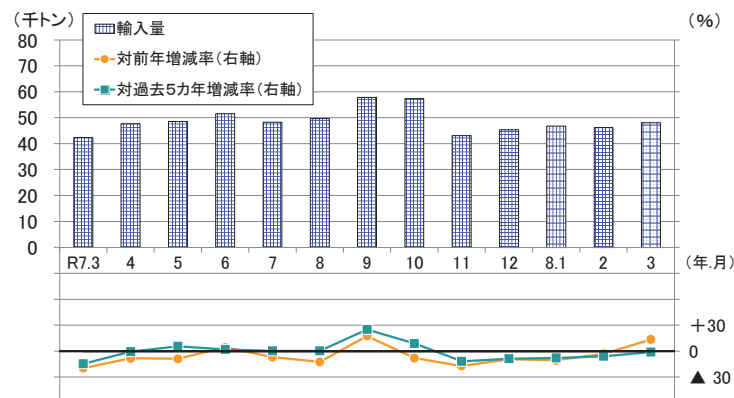
### 輸入量

3月の輸入量は、前年のブラジル産の輸入量が同国内や他国での需要の高まりにより低水準であったことや現在の輸入品在庫量が低水準であることなどを受けて、4万8088

トン（前年同月比13.7%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図2）。

なお、過去5カ年の3月の平均輸入量との比較では、1.2%減とわずかに下回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

## 家計消費量

3月の鶏肉の家計消費量（全国1人当たり）<sup>(注)</sup>は、569グラム（前年同月比0.7%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の3月の平均消費量との比較では、5.4%増とやや上回る結果となった。

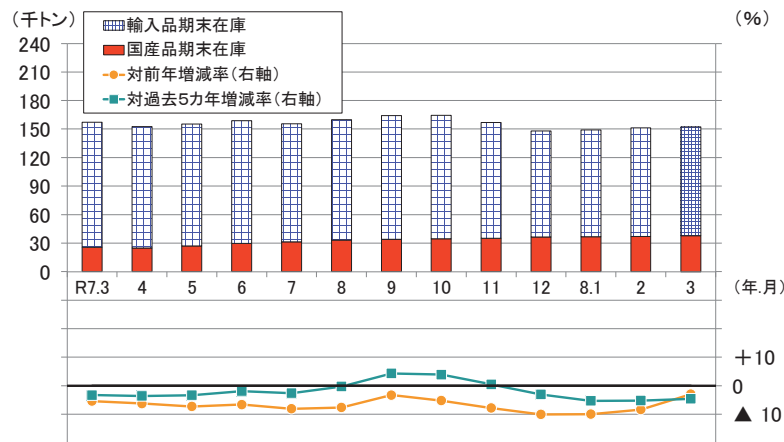
(注) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

## 推定期末在庫・推定出回り量

3月の推定期末在庫は、15万2466トン（前年同月比2.9%減）と前年同月をわずかに下回った（図3）。このうち、輸入品は11万4637トン（同12.7%減）と前年同月をかなり大きく下回った。

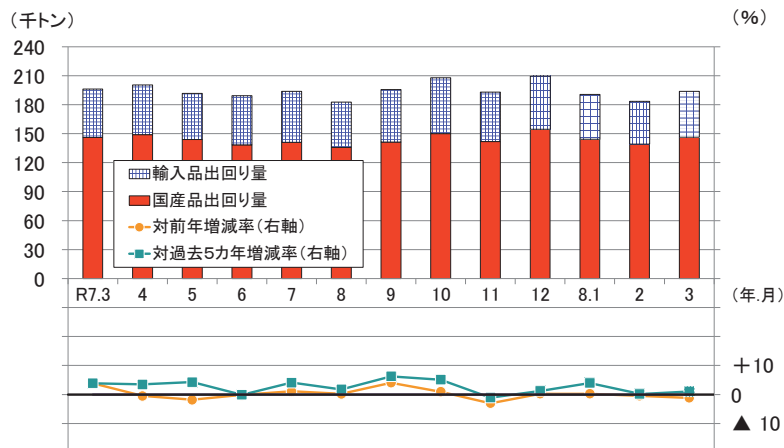
推定出回り量は、19万4001トン（同1.1%減）と前年同月をわずかに下回った（図4）。このうち、国産品は14万6437トン（同0.3%増）と前年同月並みとなった一方、輸入品は4万7564トン（同5.4%減）と前年同月をやや下回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部)

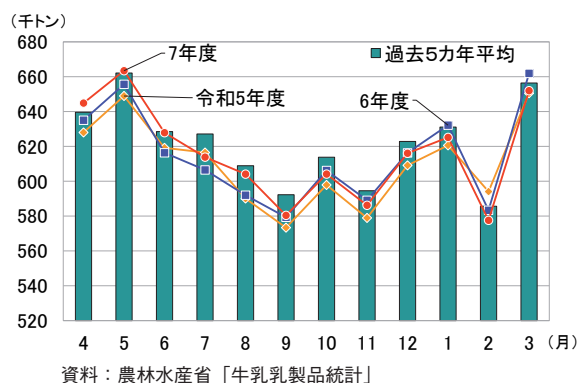
# 牛乳・乳製品

## 8年3月の脱脂粉乳在庫量は前年同月比33.7%増

### 北海道および都府県の生乳生産量、前年割れが継続

令和8年3月の生乳生産量は、65万1981トン（前年同月比1.5%減）と、6カ月連続で前年同月を下回った（図1）。地域別では、北海道が37万3836トン（同1.4%減）と、3カ月連続で前年同月を下回った。また、都府県でも27万8145トン（同1.6%減）と、7カ月連続で下回った。

図1 生乳生産量の推移



3月の生乳処理量を見ても、牛乳等向けは30万2906トン（同2.6%減）と、8カ月連続で前年同月を下回った。このうち、業務用向けについては2万2479トン（同12.8%減）とかなり大きく下回った。

乳製品向けは、34万5582トン（同0.5%減）と2カ月ぶりに前年同月を下回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは5万9275トン（同3.7%減）と5カ月連続で下回った一方で、チーズ向けは4万3411トン

（同6.7%増）と7カ月連続で上回った。また、脱脂粉乳・バター等向けは、19万5414トン（同0.2%減）となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った（農畜産業振興機構調べ「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

### 全国の3月の牛乳生産量、前年同月を8カ月連続で下回る

3月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、24万1916キロリットル（前年同月比2.2%減）と8カ月連続で前年同月を下回った。成分調整牛乳も前年割れが継続しており、1万5340キロリットル（同10.4%減）となった。また、加工乳についても、1万1949キロリットル（同3.8%減）と8カ月連続で前年同月を下回った。

はっ酵乳は、9万247キロリットル（同0.1%減）と前年同月並みとなった。

### 3月末のバター在庫量、前年同月比25.1%増

3月のバターの生産量は、8454トン（前年同月比2.4%増）と2カ月連続で前年同月を上回った（図2）。一方、出回り量は7587トン（同6.5%減）と2カ月連続で下回った（農畜産業振興機構調べ）。在庫量については、19カ月連続で前年同月を上回り、3月末は3万3970トン（同25.1%増）となった（図3）。

図2 バターの生産量の推移

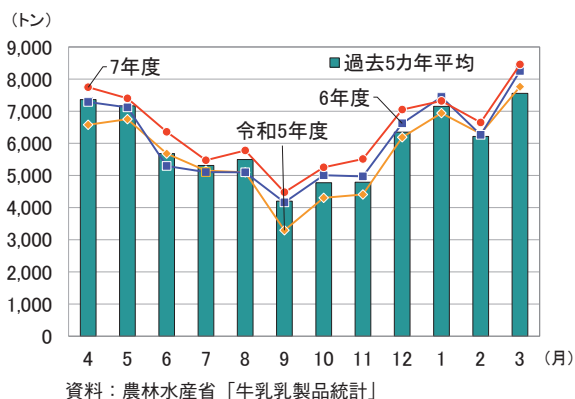


図4 脱脂粉乳の生産量の推移

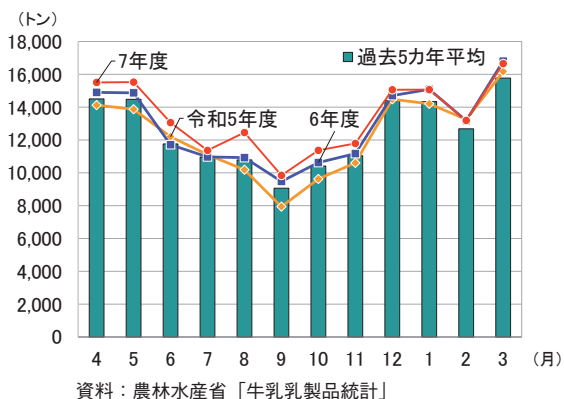


図3 バターの在庫量の推移

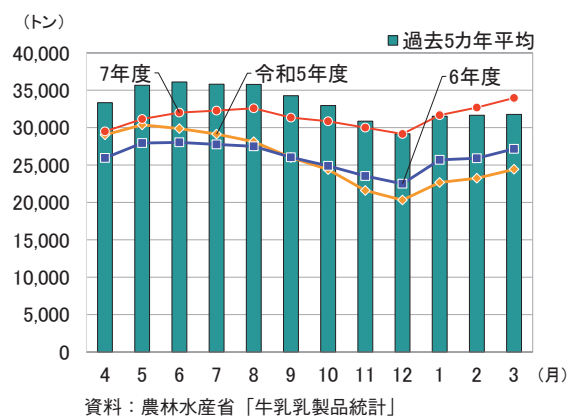
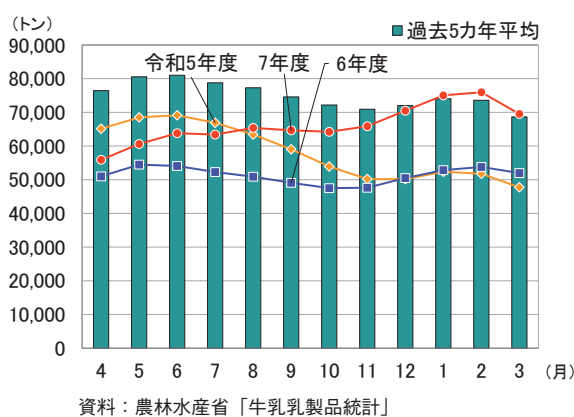


図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



### 3月末の脱脂粉乳在庫量、6万トン台の水準へ

3月の脱脂粉乳の生産量は、1万6655トン（前年同月比0.9%減）と2カ月ぶりに前年同月を下回った（図4）。また、出回り量は、民間による在庫削減対策により2万3162トン（同23.0%増）と2カ月連続で上回った（農畜産業振興機構調べ）。在庫量は、6万9530トン（同33.7%増）と前月より6431トン減となり6万トン台となった（図5）。

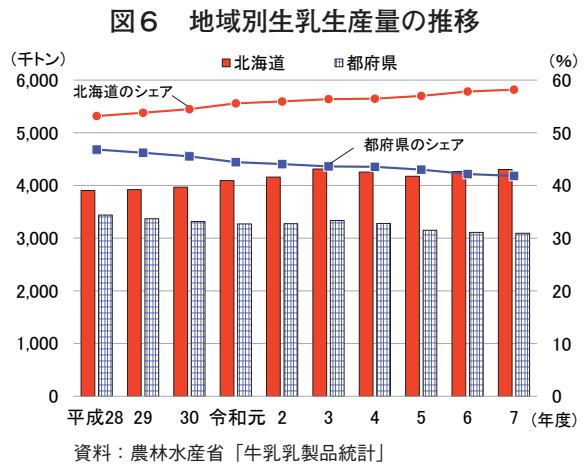
### 令和7年度の生乳生産量、2年連続の増産

令和7年度の生乳生産量は739万5522トン（前年度比0.3%増）となり、2年連続の増産となった。地域別に見ると、北海道は430万3013トン（同0.9%増）と2年連続で上回った一方で、都府県は309万2509トン（同0.6%減）と4年連続で下回った（図6）。なお、全国の生乳生産量に占める北海道のシェアは58.2%、都府県のシェアは41.8%となった。

7年度の生乳処理量のうち牛乳等向けは、減少傾向は継続ながらも、378万1123トン（同1.1%減）とわずかな減少にとどまった。一方、乳製品向けは357万1494トン（同

1.9%増)と、前年に続き増加傾向で推移している。

牛乳等の生産量については、飲用牛乳等のうち牛乳が303万6636キロリットル(同1.2%減)と前年度をわずかに下回り、4年連続の減少となった。成分調整牛乳は19万7578キロリットル(同7.2%減)と前年度をかなりの程度下回り、8年連続での減少となった。また、加工乳は、14万2051キロリットル(同3.7%減)と前年度をやや下回った。



(酪農乳業部)

## 鶏卵

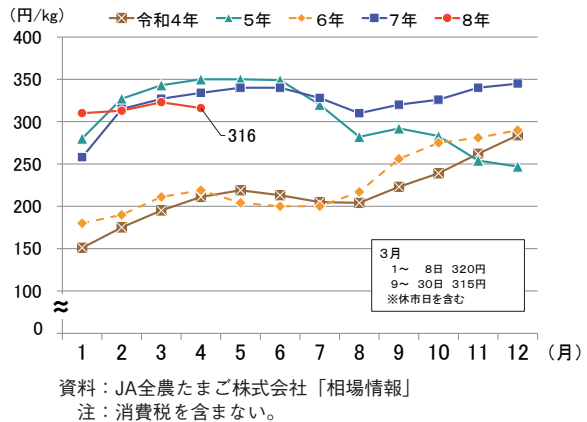
### 8年4月の鶏卵卸売価格、前年同月比5.4%安

#### 卸売価格

令和8年4月の鶏卵卸売価格(東京、Mサイズ基準値)は、1キログラム当たり316円(前年同月差18円安、前年同月比5.4%安)と、前年同月の同価格をやや下回った(図)。同価格の日ごとの推移を見ると、月初の同320円から9日には同315円に下落し、月末まで同額で推移した結果、月間下落幅は同5円となった。なお、過去5カ年の4月の平均卸売価格は271円であり、それと比較すると、16.6%高と大幅に上回る結果となった。

供給面について、生産量は国内で高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生はあったものの比較的安定していた。需要面について、量販筋では売価が高水準で推移し、外食筋では大手ファストフードチェーンによるプロモーションが終了するなどして、落ち着いた状況となった。

図 鶏卵卸売価格(東京、Mサイズ基準値)の推移



#### 家計消費量

3月の鶏卵の家計消費量(全国1人当たり)<sup>(注)</sup>は、934グラム(前年同月比0.3%増)と前年同月並みとなった(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の3月の平均消費量との比較では、1.8%増とわずかに上回る結果となった。

(注) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

(畜産振興部)

# 令和7年度の食肉の需給動向について

令和7年度(令和7年4月～令和8年3月)の食肉の畜種別の需給動向は以下の通り。

## 【牛肉】

### 生産量は、前年度をわずかに下回る

7年度(令和7年4月～令和8年3月)の牛肉生産量は、34万9872トン(前年度比1.0%減)と前年度をわずかに下回った(表1)。品種別では、和牛は18万5388トン(同2.4%増)、交雑種は9万4594トン(同1.5%増)と、ともに前年度をわずかに上回った一方、乳用種は6万9337トン(同11.0%減)と前年度をかなり大きく下回った。

### 輸入量は、前年度をわずかに上回る

7年度の牛肉輸入量は、50万8087トン(前年度比0.4%増)と前年度をわずかに上回ったが、引き続き、過去の水準と比較すると低調に推移した。

主にテーブルミートとして消費される冷蔵品は、物価上昇による消費者の生活防衛意識の高まりにより牛肉の国内需要が低迷する中、現地相場高などの影響により主に米国産が減少しており、17万2943トン(同7.5%減)と前年度をかなりの程度下回った。輸入先別に見ると、豪州産は9万2471トン(同1.6%増)と前年度をわずかに上回った一方、米国産は6万4427トン(同18.9%減)と前年度を大幅に下回った。その結果、シェア

は、豪州が全体の53.5%、米国が同37.3%を占めた。

他方、主に加工・業務用に仕向けられる冷凍品は、豪州産のうち主に加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が増加したことなどから、33万4885トン(同4.9%増)と前年度をやや上回った。輸入先別に見ると、豪州産は16万3292トン(同8.7%増)とかなりの程度、米国産は11万7088トン(同20.5%増)と大幅に、いずれも前年度を上回った。その結果、シェアは、豪州が全体の48.8%、米国が同35.0%を占めた。

### 推定出回り量は、前年度並み

7年度の牛肉の推定出回り量は、物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まりが継続し、83万9481トン(前年度比0.2%減)と前年度並みながらも、6年連続で減少した。このうち、輸入品は、50万1457トン(同1.1%増)と前年度をわずかに上回った一方、国産品は、33万8024トン(同2.2%減)と前年度をわずかに下回った。

年度末(8年3月)の推定期末在庫は、13万8352トン(同4.6%増)と前年度末をやや上回った。このうち、約9割を占める輸入品は12万8320トン(同5.4%増)と前年度末をやや上回った一方、国産品は1万32トン(同4.6%減)と前年度末をやや下回った。

表1 牛肉需給表

年度	生産量						輸入量							
	うち和牛		うち交雑種		うち乳用種		うち冷蔵品		うち冷凍品					
	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)				
R 3	335,942	0.1%	160,518	▲0.0%	83,616	1.8%	86,380	▲1.3%	569,107	▲3.7%	251,889	▲2.4%	316,918	▲4.7%
4	347,570	3.5%	164,978	2.8%	92,220	10.3%	85,149	▲1.4%	562,505	▲1.2%	214,535	▲14.8%	347,635	9.7%
5	351,402	1.1%	171,038	3.7%	95,028	3.0%	81,542	▲4.2%	501,898	▲10.8%	199,476	▲7.0%	301,988	▲13.1%
6	353,451	0.6%	180,978	5.8%	93,150	▲2.0%	77,894	▲4.5%	506,260	0.9%	186,910	▲6.3%	319,102	5.7%
7	349,872	▲1.0%	185,388	2.4%	94,594	1.5%	69,337	▲11.0%	508,087	0.4%	172,943	▲7.5%	334,885	4.9%

年度	推定出回り量						推定期末在庫					
	うち輸入品		うち国産品		うち輸入品		うち国産品					
	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)		
R 3	886,809	▲4.7%	559,383	▲7.1%	327,427	▲0.2%	127,825	8.8%	114,655	9.3%	13,170	5.0%
4	880,398	▲0.7%	540,032	▲3.5%	340,366	4.0%	149,724	17.1%	137,128	19.6%	12,596	▲4.4%
5	870,036	▲1.2%	527,797	▲2.3%	342,239	0.6%	124,337	▲17.0%	111,229	▲18.9%	13,108	4.1%
6	841,435	▲3.3%	495,799	▲6.1%	345,636	1.0%	132,208	6.3%	121,690	9.4%	10,518	▲19.8%
7	839,481	▲0.2%	501,457	1.1%	338,024	▲2.2%	138,352	4.6%	128,320	5.4%	10,032	▲4.6%

資料：農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」、在庫量は、農畜産業振興機構調べ  
注：部分肉ベース。輸入量のうち、冷蔵品および冷凍品はくず肉を含まない。

## 【豚肉】

### 生産量は、前年度並み

7年度の豚肉生産量は、89万6973トン（前年度比0.3%増）と前年度並みとなった（表2）。

### 輸入量は、前年度をやや下回る

7年度の豚肉輸入量は94万4787トン（前年度比3.9%減）と前年度をやや下回り、過去最大の輸入量となった前年度から減少に転じた。

主にテーブルミートとして消費される冷蔵品は、米国産の現地相場が上昇する中、価格や規格などで一定の評価を受けるカナダ産が増加したことなどから、41万5164トン（同10.2%増）と前年度をかなりの程度上回った。輸入先別に見ると、カナダ産は23万625トン（同19.4%増）と前年度を大幅に

上回った一方、米国産は13万8119トン（同3.4%減）と前年度をやや下回った。その結果、シェアは、カナダが全体の55.6%、米国が同33.3%を占めた。

一方、主に加工・業務用に仕向けられる冷凍品は、価格優位性のあるブラジル産が増加した一方、現地相場高の影響などにより、その他の主要国からの輸入量が減少したことに加え、年末以降のアフリカ豚熱発生によるスペイン産の輸入一時停止措置<sup>(注)</sup>の影響などから、52万9538トン（同12.7%減）と前年度をかなり大きく下回った。輸入先別に見ると、ブラジル産は11万3024トン（同22.9%増）と前年度を大幅に上回った一方、スペイン産は14万5506トン（同18.4%減）と大幅に、米国産は6万8998トン（同10.2%減）とかなりの程度、カナダ産は4万3087トン（同14.4%減）とかなり大きく、いずれも前年度を下回った。また、メ

キシコ産は5万2395トン（同19.8%減）、デンマーク産は3万5313トン（同35.5%減）と、ともに前年度を大幅に下回った。その結果、シェアは、スペインが全体の27.5%、ブラジルが同21.3%、米国が同13.0%、メキシコが同9.9%、カナダが同8.1%、デンマークが同6.7%を占めた。

（注）農林水産省は、令和7年11月28日にスペイン産豚肉等の輸入を一時停止。その後、同年10月29日以前にと殺・加工・梱包まで終了しているものであり、かつ輸出されるまでの間、防疫上安全かつ衛生的に保管および輸送されたものであることをスペイン政府が証明しているものについては、輸入停止措置の対象外とすることを発表。

### 推定出回り量は、前年度並み

7年度の豚肉の推定出回り量は、物価上昇

による牛肉からの需要のシフトが続いていることなどから、184万5760トン（前年度比0.2%減）と前年度並みとなった。このうち輸入品は、95万889トン（同0.7%減）と前年度をわずかに下回った一方、国産品は89万4871トン（同0.3%増）と前年度並みとなった。

年度末（8年3月）の推定期末在庫は、21万908トン（同2.6%減）と前年度末をわずかに下回った。このうち、約9割を占める輸入品は18万6013トン（同3.2%減）と前年度末をやや下回った一方、国産品は2万4895トン（同1.9%増）とわずかに前年度末を上回った。

表2 豚肉需給表

年度	生産量		輸入量					
			うち冷蔵品			うち冷凍品		
	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)
R 3	922,691	0.6%	928,994	5.1%	426,836	2.1%	502,142	7.8%
4	901,101	▲2.3%	965,146	3.9%	391,789	▲8.2%	573,311	14.2%
5	908,696	0.8%	914,512	▲5.2%	392,739	0.2%	521,645	▲9.0%
6	894,534	▲1.6%	983,276	7.5%	376,866	▲4.0%	606,284	16.2%
7	896,973	0.3%	944,787	▲3.9%	415,164	10.2%	529,538	▲12.7%

年度	推定出回り量						推定期末在庫					
	うち輸入品				うち国産品		うち輸入品				うち国産品	
	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)
R 3	1,852,032	1.3%	930,780	2.2%	921,252	0.5%	180,095	▲1.0%	156,094	▲1.1%	24,001	▲0.4%
4	1,835,097	▲0.9%	931,668	0.1%	903,429	▲1.9%	209,804	16.5%	189,572	21.4%	20,232	▲15.7%
5	1,842,203	0.4%	937,965	0.7%	904,238	0.1%	189,236	▲9.8%	166,119	▲12.4%	23,117	14.3%
6	1,849,160	0.4%	957,280	2.1%	891,880	▲1.4%	216,539	14.4%	192,115	15.6%	24,424	5.7%
7	1,845,760	▲0.2%	950,889	▲0.7%	894,871	0.3%	210,908	▲2.6%	186,013	▲3.2%	24,895	1.9%

資料：農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」、在庫量は、農畜産業振興機構調べ  
注：部分肉ベース。輸入量のうち、冷蔵品および冷凍品はくず肉を含まない。

### 【鶏肉】

### 生産量は、前年度をわずかに上回る

7年度の鶏肉生産量は、好調な鶏肉消費を

背景に、173万7617トン（前年度比1.9%増）と、前年度をわずかに上回った（表3）。

## 輸入量は、前年度をやや下回る

7年度の鶏肉輸入量は、円安の影響等によりブラジル等からの輸入量が減少したことから、59万339トン（前年度比4.6%減）と前年度をやや下回った。

輸入先別に見ると、ブラジル産は40万2773トン（同6.2%減）と前年度をかなりの程度下回った一方、タイ産は18万532トン（同0.2%増）と前年度並みとなった。その結果、シェアは、ブラジルが全体の68.2%、タイが同30.6%を占めた。

## 推定出回り量は、前年度並み

7年度の鶏肉の推定出回り量は、物価上昇による他畜種からの需要シフトが続く中、

233万2503トン（前年度比0.0%減）と前年度並みとなった。このうち、主に加工用、外食・中食用に大部分が仕向けられる輸入品は60万6944トン（同1.6%減）と前年度をわずかに下回った一方、家計消費用に仕向けられることが多い国産品は172万5559トン（同0.5%増）と前年度をわずかに上回った。

年度末（8年3月）の推定期末在庫は、15万2466トン（同2.9%減）と前年度末をわずかに下回った。このうち、約8割を占める輸入品は11万4637トン（同12.7%減）と前年度末をかなり大きく下回った一方、国産品は前年度が比較的低水準であった中、3万7829トン（同46.8%増）と前年度末を大幅に上回った。

表3 鶏肉需給表

年度	生産量		輸入量	
	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)
R 3	1,689,107	2.4%	594,223	7.5%
4	1,678,792	▲0.6%	565,043	▲4.9%
5	1,702,378	1.4%	608,569	7.7%
6	1,705,549	0.2%	618,755	1.7%
7	1,737,617	1.9%	590,339	▲4.6%

年度	推定出回り量						推定期末在庫					
	うち輸入品		うち国産品		うち輸入品		うち国産品		うち輸入品		うち国産品	
	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)
R 3	2,289,479	3.6%	604,085	8.4%	1,685,394	2.0%	157,653	▲3.8%	125,160	▲7.3%	32,493	12.9%
4	2,247,586	▲1.8%	563,350	▲6.7%	1,684,236	▲0.1%	153,902	▲2.4%	126,853	1.4%	27,049	▲16.8%
5	2,298,871	2.3%	606,312	7.6%	1,692,559	0.5%	165,978	7.8%	129,110	1.8%	36,868	36.3%
6	2,333,269	1.5%	616,623	1.7%	1,716,646	1.4%	157,013	▲5.4%	131,242	1.7%	25,771	▲30.1%
7	2,332,503	▲0.0%	606,944	▲1.6%	1,725,559	0.5%	152,466	▲2.9%	114,637	▲12.7%	37,829	46.8%

資料：財務省「貿易統計」、農畜産業振興機構調べ

注1：生産量は骨付き肉ベース。

注2：成鶏肉含む。

注3：輸入量には鶏肉以外の家きん肉を含まない。

(畜産振興部)